

### 第3章 基本的考え方

答申では、病院の経営健全化に向けての提言が主体となっています。

しかし、当院は、地域中核病院として経営面ばかりではなく、「第1章 計画策定までの経緯」「第2章 病院の現状」を踏まえ、地域の医療ニーズに応えるとの視点も取り入れて計画を策定する必要があると考えます。

なお現在、国においては、今まで以上に病院・病床の機能分化・機能強化及び在宅医療の強化を進めることとしています。病床の機能分化については、亜急性期病床の考え方も示されていることから、これらを踏まえた検討を行っていきます。

#### (1) 計画期間の考え方

計画の年数については、答申では「10年の長期スパンで考える」との観点から、前半5年を基盤整備の期間、後半5年を整備された基盤の流れを定着化させていく期間としています。

しかし、既に答申に基づく療養病棟開設などの基盤整備を実施したこと、また、変化の著しい医療環境の状況を考慮いたしますと、5年先の目標が妥当と考えられることから、平成23年度から平成27年度までの5年計画とします。

#### (2) 病床数の考え方

答申では、平成21年度までの入院患者数の推移に基づき「まず縮む、それから伸ばす」との方向性が示され、適正な病床数として、全体を175床程度に縮小し、急性期病床（一般病棟）を80～90床、残りを慢性期病床に転用するという具体案が示されました。

当院では、病棟ごとの病床数なども考慮し、全体の稼働病床数をそれまでの一般病床189床から130床とし、療養病棟を60床開設し合計190床としました。その後、一般病床は利用率が90%近い状況が続いたため、平成23年3月には143床（全体で203床）としました。現在までの状況では、病床利用率が80%近くで推移しておりますので、この現状を踏まえて病床数を検討します。

#### (3) 外来の考え方

答申には外来について言及されておりませんが、当院としては地域における外来の役割も十分認識していることから、外来の診療科についても本計画に盛り込んでいきます。

なお、この計画策定の大きな目的の一つに、経営の安定を図ることが挙げられていることから、取り組む項目ごとに可能な限り数値目標を設定し、その達成状況を進行管理していきます。



富士山と茶畑